



# ラグビーワールドカップ2019 日本大会 「埼玉県・熊谷市」開催にむけて (上)

ぶぎん地域経済研究所 取締役調査事業部長 松本 博之

## はじめに

いよいよ、2019年秋に「ラグビーワールドカップ2019日本大会」がやって来る。思い起こせば、イングランドで行われた同2015では、9月19日（土）世界のラグビーファン、関係者を驚愕させた対南アフリカ戦での試合終了間際の逆転勝利が、我々の脳裏に鮮明に残っている。この試合で波に乗ったJAPANは、惜しくも決勝トーナメント出場は逃すものの、サモア代表、アメリカ代表にも勝利し、一大会で初の3勝をマークした。あの試合は日本ラグビーの大きな転換点となった。“ラグビーブーム”が到来、世界最高峰のスーパーラグビーにも参加するなど、その熱気は2019年地元開催に向けて続いている。

我々、埼玉県民にとっても、まさに地元開催である。会場となった全国12のラグビー場の中に熊谷ラグビー場も入っており、期待も高まっている。そこで、本誌では2回にわたりラグビー特集を企画し、今月号は「ラグビーワールドカップ2019日本大会 あ・らかると」として、これだけは知っておきたいラグビーワールドカップの基礎知識を紹介する。次号は、埼玉県のラグビーの歴史を、高校ラグビーと埼玉県が輩出したスター選手を中心に紐解いていく。

## ラグビーワールドカップの歴史と概要

### ～ラグビーワールドカップの歴史～

ラグビーワールドカップ（以下、ワールドカップ）は、1987年にニュージーランド・オーストラリア共催で第1回大会が開催され、日本チームが大活躍した2015年イングランド大会が8回目となった。大会規模からオリンピック、FIFAワールドカップに次ぐ、世界の三大スポーツイベントの一つと言われるまでになった。

世界の三大スポーツイベントの中で、2019年にラグビーワールドカップ、2020年にオリンピック・パラリンピックが立て続けに日本で開催されることは、日本のスポーツイベント史上かつてない出来事である。加えて、それぞれの大会の開催地に埼玉県が選ばれていることは大きな意義がある。



TM © RWCL 1986

### ラグビーワールドカップ大会の推移

回	開催年	開催国・地域	出場チーム数	予選参加数	観客動員数(万人)	チケット販売数(万枚)	TV放映国数
第1回	1987	ニュージーランド オーストラリア	16	—	61	60	17
第2回	1991	イングランド	16	31	101	100	103
第3回	1995	南アフリカ共和国	16	52	110	110	124
第4回	1999	ウェールズ	20	69	175	170	209
第5回	2003	オーストラリア	20	82	184	189	193
第6回	2007	フランス	20	94	226	225	200
第7回	2011	ニュージーランド	20	92	148	135	207
第8回	2015	イングランド	20	83	248	247	200
第9回	2019	日本	20	90	—	—	—

出所：Rugby World Cup 2019 Fact Book

ラグビーワールドカップは、4年に1度開催されるラグビー界最大のイベントである。この大会は経済面でもラグビー界の発展の重要な役割を担っている。ラグビーワールドカップで得られた収益は、加盟ユニオンに分配され、国際試合を開催するなど多様な形で活用されている。

1987年の第1回大会は、地区予選はなく16チームが主催者招待という形で参加した。開催地でもあるニュージーランドが優勝した。

1991年の第2回イングランド大会では、日本チームは、宿沢監督（熊谷高校－早稲田大学）の指揮の下、記念すべきワールドカップで初勝利を挙げた。対ジンバブエ戦において52対8の完勝だった。1995年は人種隔離政策を撤廃して国際舞台に復帰した南アフリカが初出場初優勝となった。この大会後にラグビー界は、プレーに対して報酬を得ることを認め、アマとプロとの混合によるオープン化時代に突入した。ラグビー選手のプロ化が加速していく。1999年は、オープン化後の初めてのワールドカップとなった。また参加チーム数は20チームに拡大された。2003年大会はイングランドが優勝し、5大会目にして初めて北半球のチームが優勝した。（北半球のチームが優勝したのは最初で最後）

一方、日本チームは、全大会に出場しながら、先述の第2回大会以降は勝利を挙げる事が出来なかった。2007年大会からは、監督をそれまでの日本人から外国人に変えたが2011年大会も勝利をあげられなかった。

そして2015年イングランド大会では、決勝トーナメントへの進出はならなかったが、南アフリカ戦では世界中のラグビーファンを驚かせた“奇跡の大番狂わせ”を起こすなど3勝をあげ、2019年の地元開催へ大きな弾みをつけることになった。大会では全48試合で、約247万枚のチケット販売を記録するなどワールドカップ史上で記録を塗り替えた。

### 過去の優勝チームと日本チームの戦績

回	開催年	優勝チーム	日本チームの結果
第1回	1987	ニュージーランド◎	予選プール敗退（0勝3敗）
第2回	1991	オーストラリア	予選プール敗退（1勝2敗）
第3回	1995	南アフリカ◎	予選プール敗退（0勝3敗）
第4回	1999	オーストラリア	予選プール敗退（0勝3敗）
第5回	2003	イングランド	予選プール敗退（0勝4敗）
第6回	2007	南アフリカ	予選プール敗退（0勝1分3敗）
第7回	2011	ニュージーランド◎	予選プール敗退（0勝1分3敗）
第8回	2015	ニュージーランド	予選プール敗退（3勝1敗）

◎＝地元開催での優勝

出所：Rugby World Cup 2019 Fact Book

## ワールドカップ2015を振り返る

ラグビーワールドカップ2015は、第8回目（第1回から28年目）であり、またラグビー発祥の地であるイングランド開催、またヨーロッパ地域からの観戦の利便性の良さなどが手伝って、非常に大きな盛り上がりとなった。

1987年に開催された第1回と比較すると、ワールドカップの世界的な“浸透度”を推し量ることができる。例えば観客動員数は第1回の68万人から4倍強となる248万人と膨らんだ。またチケット販売が60万枚から247万枚販売へと、こちらも4倍。テレビ放映が17か国から200か国へと世界の大半の国や地域で放送されることになった。

また第1回当時には存在しなかったスマートフォン等を利用した情報発信についても目を見張るものがある。ウェブサイト訪問者数が2,500万人、アプリダウンロード数が280万回やSNS上でのビデオ再生回数は、2億7,000万回以上となった。この傾向は2019年にはより拡大するものと推察される。

# 歴史的勝利を目の当たりにして

## ラグビーワールドカップ・イングランド大会 日本対南アフリカ観戦記



ぶぎん地域経済研究所 顧問 岩崎 康夫

(前埼玉県副知事、前ラグビーワールドカップ2019組織委員会理事)

「ラグビーワールドカップ・イングランド大会」日本対南アフリカ戦は、2015年9月19日、抜けるような空の青と芝生の緑のコントラストが美しい、イングランド南部のブライトン・コミュニティスタジアムで行われました。

私は、アジアで初めて開催される「ラグビーワールドカップ2019・日本大会」の12会場の1つとなる埼玉県熊谷ラグビー場の開催準備の一環で、この試合を観戦する機会を得ました。

スタジアムに入ると、サッカーのようにホームやアウェーの観客席の仕切りもなく、満員の3万人の観客と大会旗や横断幕などが醸し出す雰囲気とで、大いに盛り上がりを見せていました。また、日本や南アのユニホーム、着ぐるみのような人など、思い思いの服装でビールを飲みながら観戦するスタイルが印象的でした。

試合が始まると、日本チームは強国を相手に持ち前の低いタックルを次々に決め、自陣への侵入を阻みます。体と体のぶつかる音が聞こえ、もてるパワーをとことん駆使した戦いは観客をいやがうえにも試合の渦の中に引き込んで魅了していきます。

両チームが一歩も譲らず、一進一退の素晴らしい試合となりました。良いプレーには、分け隔てなく惜しみない拍手とともに、どこからともなくウェーブが何度も何度も周回し、スタジアム全体が熱狂していきました。

そしてラストプレーでの逆転トライ、劇的な勝利。ラグビーは、スポーツの中で最も番狂わせが起きにくい競技といわれていますが、誰がこの展開を予想できたでしょうか。

私は、歴史的な勝利を呼び込んだ逆転トライをスタンドの前から6列目の席で見られるという幸運に恵まれました。この瞬間は今でも忘れられません。「勝った!」「ウオー」という大歓声とともに、拳を突き出す人、万歳をする人、隣の人とハグする人など、しばらくはスタジアム全体が興奮のるつぼと化し、私もこの歓喜の渦に浸ることができました。

ゲーム終了後には、スタジアム内で、また駐車場に行く途中で、様々な国の方から日本人とみるや「ナイスゲーム」「ジャパンおめでとう」と声を掛けられたり、ハイタッチや握手攻めにもあいました。



南アフリカ戦 リーチ選手トライシーン

©JR2019, Photo by H.Nagaoka

その後の夕食会場のパブや翌日遠く離れたウエールズの街中でも、同様の状況でした。

ラグビーの持つ「ノーサイドの精神」がここにありました。

改めて、ラグビーの素晴らしさが実感できました。

2年後には、県営熊谷スタジアムにイングランド大会のこの感動がやってきます。こんな魔法の魅力を持つラグビーをできるだけ多くの方々に観戦していただき、この感動をぜひ味わっていただきたいと思います。

## 数字でみるラグビーワールドカップ 2015

開催都市	11都市	チケット収入	2億5,000万ポンド
試合会場	13会場	海外からの観客数	460,000人
参加チーム	20チーム	決勝テレビ視聴者数	1億2,000万人
試合数	48試合	SNS上でのビデオ再生回数	2億7,000回以上
ファンゾーン	15か所	ウェブサイト訪問者数	2,500万人
チームキャンプ地	41か所	オフィシャルアプリダウンロード数	280万回
大会開催日数	44日間	ボランティア数	6,000人
観客総動員数	247万人		

出所：Rugby World Cup 2019 Fact Book

### ラグビーワールドカップ2019の概要

次にラグビーワールドカップ2019(以下、ワールドカップ)の概要について紹介する。

ワールドカップ開催について、いくつか特徴を考察する。今大会はアジアの国々と地域の中で初めて、かつイングランドやニュージーランドなどのラグビーの伝統国以外では初の開催となる。また7人制ラグビーがオリンピック種目に採用（2016年リオデジャネイロ大会）されてから最初のワールドカップとしても注目されている。

開催期間は2019年9月20日～11月2日 44日間の長丁場となる。また試合会場は、全国12会場で、以下の通りである。因みに、全国12会場を紹介したい。

\*開幕戦は東京スタジアム（収容人員4万9,970人）で、決勝戦が横浜国際総合競技場（収容人員72,327人）で開催されることになっている。

#### ◇ラグビーワールドカップ2019 開催都市

- 札幌市 会場：札幌ドーム（41,410人収容）
- 岩手県・釜石市 会場：釜石鶏住居復興スタジアム（仮称）（16,000人収容予定）
- 埼玉県・熊谷市 会場：熊谷ラグビー場（30,000人収容予定）
- 東京都 会場：東京スタジアム（49,970人収容）
- 神奈川県・横浜市 会場：横浜国際総合競技場（72,327人収容）
- 静岡県 会場：小笠山総合運動公園エコパスタジアム（50,889人収容）
- 愛知県・豊田市 会場：豊田スタジアム（45,000人収容）
- 大阪府・東大阪市 会場：東大阪市花園ラグビー場（約30,000人収容予定）
- 神戸市 会場：神戸市御崎公園球技場（30,132人収容）
- 福岡県・福岡市 会場：東平尾公園博多の森球技場（22,563人収容）
- 大分県 会場：大分スポーツ公園総合競技場（40,000人収容）
- 熊本県・熊本市 会場：熊本県民総合運動公園陸上競技場（32,000人収容）

大会には20チームが参加し、2015年ロンドン大会で、4つの予選プールの中で、それぞれ5チーム中3位までになったチーム、合計12チームは予選免除となっている。

#### 予選免除対象チーム

ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ共和国、アルゼンチン、ウェールズ、フランス、アイルランド、スコットランド、イングランド、ジョージア、イタリア、日本の合計12チーム

## 予選免除対象チームの概要

国名	主な戦績	協会創立	ニックネーム	登録選手数
ニュージーランド	優勝3回 準優勝1回	1892年	オールブラックス	148,483人
オーストラリア	優勝2回 準優勝2回	1949年	ワラビーズ	230,663人
南アフリカ	優勝2回	1889年	スプリングボクス	342,316人
イングランド	優勝1回 準優勝2回	1871年	特になし	340,347人
フランス	準優勝3回	1919年	レ・ブルー	291,202人
ウェールズ	3位 1回	1881年	レッドドラゴン	73,444人
アイルランド	ベスト8	1874年	特になし	96,880人
スコットランド	4位 1回	1873年	特になし	49,305人
アルゼンチン	3位 1回	1899年	ロス・プーマス	56,998人
イタリア	プール戦	1928年	アズーリ	82,143人
ジョージア	プール戦	1961年	レロス	7,113人
日本	プール戦	1926年	特になし	107,673人

出所：Rugby World Cup 2019 Fact Book

### 残る8枠の出場権の決定方法（予選プロセス）

- ◆ヨーロッパ地区予選（1枠）
- ◆オセアニア地区予選（2枠：フィジー、トンガに決定）
- ◆ヨーロッパ・オセアニア プレーオフ予選（1枠）
- ◆アメリカ地区（2枠：1枠はアメリカに決定）
- ◆アフリカ地区（1枠）
- ◆アジア・オセアニア地区のプレーオフ
- ◆敗者復活トーナメント最終予選（1枠）

### 組み合わせ

- プールA**：アイルランド、スコットランド、日本、ヨーロッパ1、  
ヨーロッパ・オセアニアプレーオフ勝者
- プールB**：ニュージーランド、南アフリカ、イタリア、アフリカ1、最終予選勝者
- プールC**：イングランド、フランス、アルゼンチン、アメリカ合衆国、トンガ
- プールD**：オーストラリア、ウェールズ、ジョージア、フィジー、アメリカ2
- 試合形式：予選プール** 5チーム×4プール（プール内総当たり戦により合計40試合）  
各プールの1位、2位が決勝トーナメントに進出する
- 決勝トーナメント** 準々決勝、準決勝、3位決定戦、決勝戦 合計8試合

大会試合数は予選と決勝トーナメントを合わせて48試合となる

各会場での対戦カードは、当初2017年9月発表予定であったが、11月に2か月間延期された。

## 2020年東京オリンピックとの比較

さて、ワールドカップの翌年に、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることは、今更言うまでもない。では、このワールドカップを東京オリンピックと比較してみよう。決して引けを取らないスポーツイベントであることがわかる。主な項目は以下の通りである。

- 開催期間等**：開催期間だけを比較しても東京オリンピックが17日間であるのに対して、ラグビーワールドカップ2019は44日間と約2.5倍の長さとなる。加えて開催前の事前キャンプの期間を入れると約2か月にも及ぶ長期間のイベントとなる。
- 開催場所等**：東京オリンピックは東京都を中心に大半が首都圏であるのに対して、ラグビーワールドカップ2019は全国12か所で開催される。また先述の事前キャンプ地や大会期間中にチームが滞在する公認チームキャンプ地を含めると、より多くの地域がワールドカップと関わり合いを持つことになり、関連地域への経済効果も期待できる。
- 参加国と海外観光客**：参加国は、ヨーロッパやオセアニアが中心となっているが、アメリカやアルゼンチンが出場を決めており、世界中から多くの観戦客の来日が期待される。また彼らは長期滞在看見込まれ、高額消費が期待される。2015年大会はイングランドということもあって46万人が海外からの観戦客が来ている。今回のワールドカップも日本の各地でインバウンド効果が期待される。

## 埼玉県・熊谷市の誘致取り組みについて

### (1)開催都市誘致までの経緯

2011年4月：ラグビーワールドカップ2015年の開催国に日本が立候補を表明した時の開催都市の候補地として、高校ラグビーの2つの聖地、東大阪市と熊谷市が入っていなかった。その後、東大阪市が誘致活動を始めたことから、2011年4月に招致組織を作り、活動を開始した。

熊谷市長が埼玉県ラグビーフットボール協会会長を務めていることもあり、熊谷市を中心に熱心に誘致活動を展開した。

2011年～：招致に向けて、署名活動を実施するなど PRイベントの開催やグッズの配布等を行った。

2014年6月～：新しい招致組織として、埼玉県知事を会長とする「埼玉県ラグビーワールドカップ2019年招致委員会」を設立した。埼玉県と熊谷市がスクラムを組み、地元企業や埼玉県ラグビーフットボール協会との協力体制のもとに公民連携での招致活動を継続した。

2015年3月：2015年1月、組織委員会による公式視察を経て、3月2日に開催都市に決定した。

### (2)熊谷ラグビー場について

1991年開場の埼玉県営熊谷ラグビー場は、“ラグビータウン熊谷”の象徴である。ラグビー専用グラウンドを3面持っている。毎年春に全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会が開催されており、「西の花園、東の熊谷」と言われるように高校ラグビーの聖地である。

ラグビーワールドカップ2019年の開催に合わせて、大規模改修を実施している。完成は、2018年8月の予定。既存のバックスタンド及びサイドスタンドを撤去してメインスタンド及びサイドスタンドとして建替えを行っている。改修後は、30,000人収容のスタジアムとなるが、このうち約6,000席は、ワールドカップ期間中の仮設で、ワールドカップ終了後は、約24,000席にダウンサイジングされる予定となっている。



埼玉県営熊谷ラグビー場（改修後イメージ図）

# ラグビーワールドカップ2019に向けて

埼玉県知事 上田 清司



ラグビーワールドカップ2015イングランド大会の日本対南アフリカ戦。同点PKのチャンスで、勝ちにこだわりスクラムを選択した日本が、逆転勝利のトライを決めたとき、我が国は興奮と感動に包まれました。

あれから2年。本県及び熊谷市は、アジア初となるラグビーワールドカップの開催地に選ばれるという栄誉の下、会場である熊谷ラグビー場の大規模改修を進めています。来年8月末には、選手も観客も試合に集中できる、世界最高峰の舞台にふさわしいスタジアムが完成します。あわせて、ラグビー場がある熊谷スポーツ文化公園までのアクセス道路や園内の並木道の整備を行い、来県される皆様におもてなしの心が伝わる快適な環境づくりを進めています。

大会開催中は、多くの観戦者が海外から来日して、各地を周遊し、大会全体の経済効果は4,200億円に上るとの試算もあります。本県にとって、正に「天の時」を得たといえるでしょう。さらに、新幹線や高速道路をはじめとする発達した交通網、盆栽や蔵づくりの町並みなど多彩な観光資源は、本県が誇る「地の利」です。

そして、大会成功のために何より大切な「人の和」には、県民皆様の御協力が必要です。ラグビー精神を表す“One For All, All For One”の心でスクラムを組み、オール埼玉体制で大会を盛り上げていきましょう。

2002年の「FIFAワールドカップ」では日本サッカー界における「埼玉スタジアム2002」の存在を不動のものとししました。次は、熊谷ラグビー場がラグビーの聖地となる番です。

今後、熊谷では、ラグビーの試合をはじめ、大会を盛り上げる様々なイベントを行ってまいります。県民の皆様には、是非、大会開催に沸き立つ熊谷へ足をお運びくださるようお願い申し上げます。



南アフリカ戦 日本代表集合写真  
©JR2019, Photo by H.Nagaoka

## 「ラグビータウン熊谷」のさらなる発展に向けて

熊谷市長 富岡 清



夏季オリンピック、サッカー・ワールドカップとともに世界3大スポーツ大会の一つといわれるラグビーワールドカップが、2019年に日本で開催されます。

熊谷ラグビー場を含む全国12か所が会場となり、熊谷市は埼玉県とともに開催都市として大会をさらに盛り上げ、成功させるために重要な役割を担うことになります。

ラグビーはイギリスを中心としたヨーロッパと、ニュージーランド・オーストラリア・南アフリカといった地域で人気が高く、過去8回の大会は、すべてこれらのラグビー伝統国で開催されました。日本大会はアジアで初めてとなるだけでなく、ラグビー伝統国以外で初めての大会となるため、世界が注目しており、埼玉県や本市の魅力を世界に発信する絶好の機会となります。

本市では、開催都市として求められる、円滑な「観客輸送」に向けた計画の作成や実施、多くのファンが集い、大型ビジョンによる観戦や飲食などが楽しめる「ファンゾーン」の設置・運営、大会期間中の開催ムードを盛り上げるための「都市装飾」、大会ボランティアの募集や研修など、大会に向け鋭意準備を進めております。

どこの会場で、どんな対戦カードが、いつ行われるかといった、マッチスケジュールは、来月には発表される予定です。このマッチスケジュールの決定によって、試合の時間帯や曜日による輸送交通対策や公共交通機関との調整、ファンゾーンの開設日程の検討など具体的な対応を本格的に取り組んでまいります。

また、熊谷で試合を行う国も決まり、子ども達にとっては、その国々の生活や文化を学べる貴重なチャンスとなり、大会に向けた機運もさらに盛り上がるものと考えております。

そして、ラグビーワールドカップの成功はもとより、これを契機として、本市の特色であるラグビーを通じたまちづくり「ラグビータウン熊谷」の更なる推進、発展につなげていきたいと考えておりますので、今後とも皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

### おわりに

埼玉県ラグビーの歴史を紐解くと、埼玉県とラグビーの全県的な実質的な係わりは、比較的新しく、戦後の高校ラグビーからと言える。昭和20～30年代前半までは、なかなか全国大会での地区予選の壁を突破できずに県代表校を本大会である“花園”まで送り出すことは出来なかった。初代表は第38回大会（昭和33年度）熊谷商工高（現熊谷工業高）まで待たなければならなかった。その後、熊谷市や深谷市内の高校を中心に県代表校を送り出す中で、熊谷市を会場とする全国選抜高校ラグビー大会が2000年から開催されている。これらが経緯となり“ラグビータウン熊谷”が誕生し、熊谷市は“西の花園、東の熊谷”と言われるように高校ラグビーの聖地となっている。そのような熊谷市・埼玉県が、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催地となるのは、至極当然なことと言ってよい。熊谷ラグビー場で開催される試合（11月2日に発表予定）を満員にすることは最低限の責務でもある。またこれを機にラグビーだけでなく、様々なスポーツ関連の取組みを通じて県内を盛り上げ、翌年の東京オリンピック・パラリンピック2020へと繋げていかなければならない。